

平成 26 度 第 1 回 しなの鉄道活性化協議会 議事概要

日時 平成 26 年 5 月 26 日 (月)

13 時 30 分～14 時 30 分

場所 しなの鉄道本社 第一会議室

1 開 会

会議成立の報告 (事務局)

委員 26 名中 17 名が出席。出席者が過半数を超えており会議が成立していることを報告。
(協議会規約第 6 条第 2 項)

2 あいさつ (しなの鉄道活性化協議会会長)

皆様大変お忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。本協議会も総合連携計画に基づく事業として 5 年目ということで、計画期間の最終年度を迎えておりますが、昨年度は沿線自治体をはじめとする会員の皆様のご支援、ご協力によりまして軽井沢～小諸間の列車増発の実証運行など、予定していた事業をほぼ計画通りに実施することができました。改めて皆様のご協力に感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

今年度も各種の施策を積極的に展開し、輸送人員の増加を確実なものにするために引き続き皆様方のご協力を賜りながら増客に向けた取り組みを一層強化していく必要があると考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

また、北しなの線の関係でございますが、来年 3 月の開業までいよいよあと 10 ヶ月ということになりました。現在ソフト、ハードの両面で準備を加速しており、秋頃には運賃の認可申請などを行いたいと考えておりますが、何と申し上げましても最大の課題は利用者の確保ということでございます。この 2 月には関係者で運営協議会が設立をされましたけれども、今後しなの鉄道沿線全体で連携をして対応していくということが何よりも効果的ではないかと考えておりますので、この面に関しましてもどうぞご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

それから、この 7 月 11 日から運行を開始いたします観光列車「ろくもん」の関係でございます。この協議会におきましても何回かお話をさせていただきましたけれども、料金なども含めた営業方針も決まり、一部のプランについては既に申し込みも始まったところでございます。先日は 2 年後の NHK 大河ドラマに真田幸村を主人公にするということが決まったということで、観光列車「ろくもん」にも大変な追い風になるのではないかと期待をしておりますが、いずれにしましても沿線地域の魅力というものを「ろくもん」を通して最大限にアピールしていきたいと考えておりますので、どうぞこの関係につきましてもご協力の程をお願い申し上げたいと思います。

本日は本年度第 1 回目ということでございますので、昨年度事業の実績をご報告させていただくとともに、本年度の事業計画等についてご協議をいただく予定でございます。是非と

も活発なご議論をお願い申し上げまして開会にあたりましてのご挨拶にしたいと思います。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 協議事項（議長：会長 協議会規約第6条第1項）

(1) しなの鉄道活性化協議会規約の一部改正について

事務局から「資料1」を説明。

（質問・意見等なし）

(2) 監査委員の改選について

事務局から「資料2」を説明。

（質問・意見等なし）

(3) 平成25年度しなの鉄道活性化協議会事業報告について

(4) 平成25年度しなの鉄道活性化協議会決算について

事務局から「資料3」「資料4」を一括説明。

監査報告：監査委員による出納監査結果を報告。

（質問・意見等なし）

報告のとおり一括して承認。

(5) 平成26年度しなの鉄道活性化協議会事業計画（案）について

(6) 平成26年度しなの鉄道活性化協議会予算（案）について

事務局から「資料5」「資料6」を一括説明。

<議長>

今の説明にもありましたが、26年度は総合連携計画の最終年度ということで色々な意味で総括をしなければいけない訳です。協議会の総括ですが、計画された事業の5年間の効果、或いは問題点がどうだったかとういことはしなければいけないと思います。予算的に殆どを占めております小諸～軽井沢間の実証運行ですが、増便と接続改善ということで取り組んでおまして、数字的にも効果は出ています。つまり、いつも申し上げておりますが、全体の輸送人員の状況と小諸～軽井沢間の状況を比較すると、小諸～軽井沢間の乗車数が平均よりも高いということで、やはり実証運行の効果というものは数字的には一応出ているという形になっておりますが、色々問題点も指摘されておりますので、この事業計画（案）の中にもございますように、今年の実証運行の効果の検証をしたいと思っております。度々私のほうから実証運行なので、やはりどういう効果が出ているのか、或いはどういう問題点があるかということについては検証しなければいけないと申し上げていましたが、色々な意見がある中で、最終年度でありますのでアンケート方式で十分検証して総括したいと思っております。

（質疑・意見等）

ア. 会長がおっしゃるように5ヶ年計画の最終年度という状況の中で、そこそこ効果も上がっているし、実証運行という形ではなく運行していただきたいので、検証を是非行っていただくべきだということで、よろしくをお願いします。

イ. 年間の乗降客数を見ても軽井沢町は15%、16%と中軽井沢駅と信濃追分駅で増えておりますので確かに増便事業の効果はあると感じておりますので、増やしていただいて住民の足として活動的に皆さんが使えるようにしていただきたい。

ウ. 更に工夫をして、市としても増えたところでどうするのかということも考えていかなければならないので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

<議 長>

時期は未定ですが、夏ぐらいから準備を進めてアンケート方式でやりたいと思ひますので、また是非ご協力の程をお願ひします。

エ. この間も鉄道の関係の方と話したのですが、実際にお客さんを増やすことは難しい。あくまで沿線住民の方とその他の観光客によってということでありました。何か攻める方法はないのかと話しをしましたが、例えば沿線の交流できる施設などについて積極的にPRしてほしい。それから駅周辺の活性化ということで、具体的に誰が企画立案してどういうふうにするのかということが当初の議論だった。現場の駅長も明確に私どもの沿線地域の駅では何をやりましょう、誰が企画していくのかというのはちょっとはっきりしない。このあたりが話題にもなった。

<議 長>

俗に言う少子高齢化という状況があつて、やはり全体のパイという意味では縮小していくことは避けられない。そういった状況の中でどうやって一人でも多くの方に乗っていただくかという、そういうインセンティブを働かせることが、非常に問題で、なかなか決め手がないのが実情です。ですから、小さなことでもできることを積み重ねていくというより仕方がないと思ひますが、当社で一つ取り組んでいるのは、地域の皆様と一緒になつて、地域に軸足を置いて、地域の皆様と連携して全体を盛り上げていこう。俗に言うマイルールという言葉がありますが、特に、長野以北は非常に住民の方が熱心に取り組んでおられる。逆に言うと危機感の裏返しでもあると思ひますが、そういったことを地域の実情に応じてやっていくということかなと思ひますし、これから当社としてできることは何でもやってみよう。それも今言ったように地域の皆様と一緒にできるものは地域の皆様と一緒にやろうということで、やはり地域全体が盛り上がつていこうということなのです。パイという意味では、今新たな状況としては、少子高齢化で子供は減っているが、相対的には高齢者の方が比率として増えてきている。その高齢者の方も元気な方が多くなつている。今までの高齢者のイメージと違って大変活発に元気に動き回つてお金も多少ある。やはり鉄道利用のターゲットとしては非常に魅力的な市場な訳で、そういうものをどうやって掘り起こそうかとい

うことも今はやっております。ですから、そういった人を対象にしたシルバーの商品を作ったり、先程駅の話がありましたが、駅というものを単なる鉄道の施設だけではなく、私どもの言葉でいえば「まちのステーション」、要するに地域の駅です。地域の駅として色々な仕掛けを駅にして、とにかく駅に行けば色々なことがわかる、駅に行けば面白いということを通じて地域全体で駅や鉄道に関心を持ってもらうということを行っていく。それから、観光列車を走らせますが、これもパイという意味では沿線地域以外の首都圏などの所から幅広く集めてくるとか、或いはそういうことを通して本来の生活路線としてのしなの鉄道の活性化にも繋げていきたい。とにかく決め手はないのですが色々なことを積極的にやっっていこうかと思っておりますので是非、ご協力の程をよろしく申し上げます。

オ. 一つだけお願いがあるのですが、駅長さんの方からくる企画は結構忙しい。わりと直前が多い。我々も毎月会議をやって必ず駅長さんにも来てもらってやっていますが、もうちょっと早めに情報が欲しいかなというのが一つですね。それと、お金を出してとは言いませんけれども、しなの鉄道さんの持っているもので広報なり列車内のPR、そのようなものでアイデアを貸してもらおうと宣伝などしやすい。我々も姉妹都市等を中心に県外の所と連携して、県外からも結構来てもらっている。それをきっかけに旅行プランを作りましょうということをやっている。

カ. 利用者を増やすということが課題ということですが、イベントをして増やすということも一つの方法なので、見ると色々な事を工夫されているなど感心しております。今日も篠ノ井からしなの鉄道に乗って来て思ったことは空いているということ。こんなに空いているなら自転車も乗れたらいいんじゃないかと思いました。ラッシュの時は別にしても一般の生活者が自分の足として使える鉄道ということになると、駅まで行くのに自転車を使って、それがそのまま乗れて向こうで行動できて、私は長野駅に行くと、長野駅周辺はいいのですが、少し離れた所はバスを使おうか考えるのですが、自分の自転車で行けると活動範囲が広がって、自分の車だとパーキングを探したり色々ありますが、いつまで車の運転ができるかと思ったりすると、自転車が列車に乗れると良いと考えます。外国ではたくさん例があり、共存しているわけで、これからますます高齢化社会になっていく中で、元気な高齢者が自転車を使えるのではないかと考えますし、朝のラッシュで高校生が使うわけにはいかないにしても、日常生活の中で活用できる人を増やす算段をしていただければと思います。自転車が列車に乗るには色々な問題はあると思いますが、小さな駅ではそう難しくなく駅に入れるのではないかと思います。大きな二階から行く駅はすぐにできないとしても、北しなの線の小さな駅ではそういうことができるし、田舎では特にそういう足が必要ではないかと思っていますので、あまり難しく考えないでできるのではないかと考えています。今日利用して、列車というのはいいなと思ってきました。本も読めるし、景色も見れるし、車の運転で渋滞も気にしないし、とてもいい手段だと思っており大事にしていきたいのでそんな策も考えていければいいと思います。

<議 長>

大変貴重なご意見をありがとうございました。列車に乗らない理由として列車の本数が少ないなどということの他に、列車に乗るまでだとか降りた時の足をどうするかという問題があります。いわゆる二次交通だとかそういった形で言われますが、そのあたりがある程度解決されていないとなかなか列車に乗りたくても乗れないということがあるのではないかと思います。特にこれから高齢化社会を迎えて自分では車を運転しない方も増えてくるという状況もあるので、その場合に列車側でもアプローチなり、降りた後のアプローチをどうするかということを考えていかなければいけないと思います。今、自転車というお話があつて、それも確かに有力なツールだと思います。特にヨーロッパでは今お話しがあつたように自転車を車内に乗せて降りた後、または乗る前に利用できる形がかなり普及しているということで聞いておりますが、実は当社もかつてサイクリング列車ということで何回かトライしたことがあります。試験的にやってみましたが、実は利用者がほとんどいなかった。それは周知不足があつたのかもしれませんが、色々な評価ができて、ヨーロッパにはそのような文化があるが日本にはまだまだそのような文化が定着していないと言う方もおありまして、我々も実際のところどうしようかと思っております。確かにそういう声を度々お聞きをしておりますので、私どもの頭の中には要素としてありますが、ただ現実にはそういう状況があつて、実際に自転車を乗せるとなると色々な問題点も確かにある。なかなか本格的な採用という形では踏み切れていないという実態です。ですが、今言ったようにこれから高齢化社会を迎えて車に乗らない方も増えてくることを考えると、そういったことも一つの鉄道課題として考えていかななくてはならないと思っておりますので、また是非そういったご意見も寄せていただければと思います。

<議 長>

今年は総合連携計画の最終年度ということで、先程の説明にもありましたように、年が明けて今後の協議会のあり方について議論しようと思っております。しかし、年を明けてからで良いのか、或いはもっと早い段階でこの問題を考えていかなければいけないのかどうか、もう少し検討したいと思っております。いずれにしても今の協議会のあり方がこういった形でいいのかどうか、今のところ不透明な部分もありますが、法律の関係も再生活活性化法がどんな状況になるのかということをお見みながらという形にもなると思いますし、もう一つの要素として来年3月に北しなの線が開業になりますと、北しなの線沿線地域の市町村、今日もいらっしゃっておりますが、信濃町、それから飯綱町もしなの鉄道の沿線ということになりますので、構成的にも北しなの線関係者も含めた形でいかなければいけないと思っておりますので、そういったことも含めて今後の協議会のあり方というものを根本的に考えていきたいと思っております。これについてご意見があれば私どもにお寄せいただきたいと思います。

<国土交通省北陸信越運輸局>

おっしゃられるとおり、この4月には衆議院、それから5月に入りまして参議院を通過しまして、今後具体的なものはそれを受けまして検討をという形になっており、6

ヶ月後に施行という形になりまして、それと同時に具体化を図るための施策をどうするかということは並行して進めながらという形になっております。

<議 長>

そういった状況のようですので、その状況を睨みながらということになります。

キ. 北しなの線の運営協議会が2月に立ち上がった訳ですが、信濃町のほうで事務局を持っています。初めてでございますのでどのように進めていいのかわからないのですが、先輩のしなの鉄道線の沿線の皆様に教えていただいて進めていきたいと思っております。北しなの線につきましては3月に開業いたしますので、開業に向けた取り組みを進めていかなければならないというようなことで、運営協議会の方でまた話し合っ、イベントでありますとか、そういった開業に向けた準備について進めて参りたいということでございます。当面、6月、7月に予定しているのが住民組織だとか、利用促進団体とどのようにしたら利便性の向上や利用促進に繋がるのか、しなの鉄道さんに要望するためのものというニュアンスではなくて、自らが研究材料としてやるアンケートを実施したいと考えているところでございます。そんな中でマイレール意識の高揚に繋がればいいと思っております。

一案のとおり平成26年度事業計画並びに予算について一括して承認。

(7) その他

事務局から観光列車「ろくもん」について説明。

- ・ 3月25日観光列車「ろくもん」の運行ダイヤ、料金についてプレスリリース。
- ・ 年間180日の運行予定の中で継続して実施していただけるおもてなし内容に関係機関と調整中。
- ・ 軽井沢町では別荘居住者様向けに広報誌に情報を掲載していただいている。
- ・ 上田市では市長室にポスターを掲出いただき、来庁される皆様にご紹介をしていただいている。
- ・ 4月15日から5月10日まで7月分の食事付プランの受付を行いました。
- ・ 7月分の食事付プランについては4/15～5/10の間で申込受付を行い、抽選を行った。その結果空いた席の二次募集と、8月、9月分の予約の申し込みを改めて行う。
- ・ お客様のお申し込み状況は、エリア別では、長野県内は①長野市、②上田市、③千曲市の状況。県外は①東京都、②埼玉県、③愛知県、④神奈川県、⑤千葉県という状況。
- ・ 観光列車「ろくもん」は現在改造工事を行っております。当初は5月中の完成を目標としていたが、諸々の事情により6月下旬の完成見込みという状況。

4 閉 会

以 上